

第三者評価結果の公表事項(児童養護施設)

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 旅人とたいようの会

②評価調査者研修修了番号

SK15162 2004-83、SK15098 2006-27、SK15099 2006-28、2004-125

③施設の情報

名称：児童養護施設 誠心寮		種別：児童養護施設	
代表者氏名：東海 龍明		定員（利用人数）：50（45）名	
所在地：岐阜県瑞穂市本田1475番地			
TEL：058-326-3618		ホームページ：www.seisinkai-1958.jp	
【施設の概要】			
開設年月日 昭和32年7月20日			
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 誠心会			
職員数	常勤職員： 25 名	非常勤職員	5 名
専門職員	（専門職の名称）保育士	11名	社会福祉士 1名
	基幹的職員	1名	管理栄養師 1名
	家庭支援専門相談員	1名	栄養師 1名
	里親支援専門相談員	1名	調理師 2名
	臨床心理士	1名	
施設・設備の概要	（居室数）	33	（設備等）
	ワークスペース	4	遊戯療法室 1
	ケアスペース	2	観察室 1
	親子生活訓練室	1	心理検査室 1
	静養室・医務室	1	カウンセリング室 1
	ショートステイ室	1	学習室 2

④理念・基本方針

母体法人の「平等大悲」という仏教精神を基本理念として、下記の8項目を定めている。

- 1、悩む者、苦しむ者、困っている者等、支えや援助が必要である全ての児童並びに児童に関わりのある人々に手を差し伸べ、共に生き合い育ち合う。
- 2、児童は人なり、加えて純粋なり、また、次代の担い手である。ゆえに敬い尊ばれる。
- 3、人が人となるには、まわりに人が居なければならない。人が居て人となる。
- 4、心豊かな児童を育てるには、それに合った相応しい環境が必要である。
- 5、物事の争いや解決等に暴力は使わない。暴力は一切許さない。

6、大人の姿勢と行動が子どもの人間性を育む。

7、職員も経験の差こそあれ、人としての成長過程である。ゆえに共に生き合い育ち合う姿勢が大切である。

8、強固な法人の基盤は豊かな財政にあり、法人財政の基盤は後援会にある。ゆえに後援会活動の充実が大切である。

「個人の尊重」と「子どもとの関わり」を大切にして、子どもと職員が「生き合い育ち合う姿勢」を持ち、「ともに喜び、ともに悲しむ」ことのできる仲間づくりに努め、信頼関係を構築する中で「豊かな心」「思いやりの心」を育み、地域と共に生き合い、共に育ち合うことを基本として、次代を担う子どもを育てている。

⑤施設の特徴的な取組

住宅地の寺院境内で戦前から託児形式の保育所が前身であり、地域との繋がりは旧来から培い築き上げた実績が大きく、現在は後方支援として大きな力になっている。

毎年開催する「ふれあい広場」は、今年で37回目を迎え3,000人規模の参加者で賑わう地元の恒例行事にまでなっている。ボランティアは一般住民・学生・各種団体・企業・サークル・異業種施設等の幅広い協力者を集めて盛大に実施できている。職員も子どもも実行委員として企画から参加し、様々な人との関わりを社会との接点にして、他者を気遣いながらみんなで楽しさや喜びを一緒に感じ取る機会にもしている。

良好な環境のなかで育まれるべき子どもの幸せを願い、意思を尊重しつつ一人の人間として成長発達を育み、家庭復帰や社会的な自立ができるように、職員がチームを組み「ともに生き合い育ち合う関係づくり」に努め、すべての子どもに愛情をそそぎ絆が深まるように「ともに喜び、ともに悲しむことのできる仲間づくり」をめざして取り組んでいる。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成29年4月9日（契約日）～ 平成29年11月28日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	1回（平成26年度）

⑦総評

◇特に評価の高い点

若い職員が多く子どもから「〇〇ねえ（姉）・〇〇にい（兄）」と慕われ、アフターケアにも力を入れ、退所後も悩みを聞いたり相談に乗ったりする関係を築いている。「ふれあい広場」では、ボランティアとして長年協力者までになった退所者もいて、職員の大きな喜びと励みになっている。

国や県の方針に合わせて小規模グループケアにも取り組み、より家庭的な環境での養育・支援で縦割り集団をうまく活用した生活形態にしている。

子どもの不安定な状況の時期を経て、組織を見直し子どもへの関わりをチームで支援

する体制に改善し、一人の職員が抱え込まずチーム内で補完し合うことで、他の職員の良さも認めあえる相乗効果を生んでいる。チームで定期的な話し合いで情報を共有し、支援目標を確認し個々の実践を経て次のステップに移行できるようなPDCAサイクル方式で望んでいる。

ボランティアや実習生の協力が多く、人的支援外にも金品の寄付も多く寄せられ、地域の子どもは地域で見守り支えたい意向の思いを抱く住民の温かな思いやりで「地域とともに生き合い、ともに育ち合う」姿勢を職員と一緒に作りあげている。

◇改善を求められる点

様々な環境を経て入所してくる子どもが多く、発達や学習の遅れがあったり、基本的な生活習慣の習得も不完全な子どもに対し、早い段階での繰り返し学習の機会が手薄であり、ボランティアの活用等での対策が望まれる。

保育士を雇用し幼児スペースも有し、年齢差がある8名を集団保育しているが、日中保育時間帯は子どもの年齢に見合った家庭的な環境や生活・活動の配慮を期待する。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

前回の受審から3年が経ち、今回の結果と比較すると、全体的に評価があがっており、また、アンケートからも子ども達の安心感も増しているという結果でした。

前回の評価結果から、施設に不足しているものに気づき、それに対して誠心寮としての方針を大切にしながらも対応してきた結果と受け止めております。

また、今回の結果から新たな課題も見つかったため、これからの施設運営や人材育成、子どもへの支援の質の向上に繋げていきたいと考えております。

想定以上の高評価をいただきましたが、謙虚に受け止め、更に充実したものになるよう努力していきます。

⑨第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。